

## 「降ろしてください」

電車でんしゃの座席ざせきに、一人分ひとりぶんにはちょっと狭いせま余裕よゆうしかなかったら、あなたはど  
うしますか。座すわらない？それとも割わり込こんでしまう？

話力研究所わりよくけんきゅうしょの所長しょちょうさんが、こんな話はなしをしてくれました。「必要ひつようなときに  
必要ひつような言葉ことばを必要ひつような大きおおさで言いえば、必かならずあけてくれるものだ」と。

たとえば、八人用はちにんようの座席ざせきに七人しちにんしか座すわってないときに、「すみませんが、席せき  
を詰つめていただけませんか」と、その七人しちにんみんなに向むかって声こえをかけると、  
新聞しんぶんを読よんでいる人も、狸寝入たぬきねいりをしている人も、皆みなが腰こしを浮うかせて一人分ひとりぶんの  
席せきをつくってくれる。ところが、黙だまって割わり込こもうとすると、あるいはすぐ  
そばの人ひとにしか聞きこえないような小こさな声こえで言うだけでは、自分じぶんも窮屈きゅうくつな思おも  
いをするし、隣となりの人ひとも迷惑めいわくするといふのです。聞きこえた人ひとは席せきを詰つめようと  
するけれども、聞きこえない人ひとは知しらん顔かおをしていて、迷惑めいわくするのは隣となりの人ひと  
だけだといふわけです。

ごあ込み合あった電車でんしゃの中なかで、大きおおなバグもを持った人ひとが、奥おくのほうから強引ごういんに降お  
りようとする光景こうけいをよく見みかけます。「降おろしてください」とも失礼しつれいします」  
とも言いわずに、ぐいぐい周まわりの人ひとをかき分わけて進すすもうとします。気持きもちちは焦あせ  
し、荷物にもつはひっかかるし、周囲しゅういの人ひとは協きょうりよく力ちからしてくれないしでますます降ふ  
りにくくなります。

こんなとき、<sup>わたし</sup>私<sup>いま</sup>はいつも「<sup>ひつよう</sup>今<sup>ちゅうい</sup>が必要<sup>な</sup>ときですよ」と注意<sup>して</sup>あげたくありません。ひとこと<sup>こえ</sup>声をかければ、<sup>みな</sup>皆がどうにか<sup>みち</sup>道をつくってくれるはず<sup>です</sup>。中<sup>なか</sup>には、「<sup>お</sup>降り<sup>ひと</sup>る人がいますよ」と<sup>でぐち</sup>出口<sup>ちか</sup>に近い<sup>ひと</sup>人へ、わざわざ<sup>い</sup>言<sup>ひと</sup>ってくれる人だっているかもしれません。<sup>むごん</sup>無言<sup>ごういん</sup>で強引<sup>ひと</sup>な人のときは、<sup>ほんとう</sup>本当に<sup>めいわく</sup>迷惑<sup>だ</sup>という<sup>きも</sup>気持ちになるのですが、「<sup>お</sup>降<sup>ろ</sup>してください」と言<sup>われ</sup>れば、<sup>な</sup>んとか<sup>き</sup>協力<sup>し</sup>てあげたいと思うのが人情<sup>です</sup>。

<sup>でんしゃ</sup>電車<sup>なか</sup>の中<sup>かぎ</sup>に限<sup>わたし</sup>らず、<sup>にちじょうせいかつ</sup>私<sup>た</sup>たちの日常生活<sup>は</sup>ではひとことが足り<sup>ない</sup>という<sup>ぼめん</sup>場面<sup>が</sup>よくあります。「<sup>あ</sup>りが<sup>たう</sup>」「<sup>す</sup>み<sup>ま</sup>せん」のひとことが足り<sup>ない</sup>という<sup>のは</sup>よく<sup>してき</sup>指摘<sup>され</sup>るところ<sup>です</sup>。そして、ひとこと<sup>た</sup>足り<sup>な</sup>かった<sup>ため</sup>に<sup>おも</sup>思<sup>い</sup>もよらない<sup>じけん</sup>事件<sup>お</sup>が起<sup>き</sup>ることもあり、<sup>じけん</sup>そういう<sup>しんぶん</sup>事件<sup>を</sup>新聞<sup>や</sup>テレビ<sup>で</sup>知<sup>る</sup>たびにと<sup>とも</sup>も<sup>ざんねん</sup>残念<sup>おも</sup>に思<sup>い</sup>ます。

<sup>にんげん</sup>人間<sup>には</sup>、<sup>ことば</sup>言葉<sup>という</sup>心<sup>を</sup>を<sup>つた</sup>え<sup>あ</sup>合<sup>う</sup>すばらしい<sup>しゅだん</sup>手段<sup>が</sup>ある<sup>の</sup>です。これを<sup>も</sup>っと<sup>つか</sup>使<sup>う</sup>べき<sup>です</sup>。<sup>ひつよう</sup>必要<sup>な</sup>時<sup>とき</sup>という<sup>きょうくん</sup>教<sup>えんかつ</sup>訓<sup>にんげんかんけい</sup>は、円滑<sup>な</sup>人間<sup>たも</sup>関係を<sup>うえ</sup>保<sup>つ</sup>つ上で、<sup>たいせつ</sup>とても<sup>おも</sup>大切<sup>な</sup>こと<sup>だ</sup>と思<sup>い</sup>ます。